



令和8年4月8日発行

学校だより

第1号

江戸川区立松江第三中学校

〈 教育 目 標 〉

- 1 素直で明るい、心豊かな生徒を育てる
- 2 自ら進んで、よく学びよく働く生徒を育てる
- 3 責任を重んじ、正義と規律を尊ぶ生徒を育てる

“ありがとう”の言葉が飛び交う1年に…

校長 小澤 託

松江第三中学校に着任し、3年目となります小澤託（おざわたく）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。保護者、地域の皆さまのご支援とご協力をいただきながら、今年度も教職員一丸となって頑張っていきたいと思っております。

年度の始まりである4月1日に転入してきた教職員を加え、6日（月）の着任式・始業式をもって一学期が始まりました。そして、7日（火）の入学式にて127名の新入生を迎え、全校生徒345名、30名以上の教員（時間講師や巡回教員含）とSC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）、用務主事や給食のスタッフ等こちらも30名以上職員で令和8年度の松江第三中学校を前に進めていきたいと思っています。

さて、6日の始業式に、年度の始まりということもあり、2・3年生には以下のような内容のことを話しました。それぞれが1年の「決意」を立てることが大切ですよ…と。

「決意」は、誰かに言ったり、書いたりするものではありません。自分の心の中で、自分のために立てるものです。1年後、自分がこうでありたい、こんな目標を達成していきたい、というものを決めて、それぞれが向き合い、努力することが大切です、と伝えました。2・3年生だけではなく、1年生にも伝えたいことですが、自らが“決意”したものを達成できるよう、1年間“^{あせ}焦らず、^{あわ}慌てず、^{あきら}諦めず”頑張っていきたいと思っています!!



「過去と他人は変えられない。しかし、未来と自分は変えられる」

次に、自分だけではなく、学校という集団生活の中で、目標にしてほしいことを書かせていただきます。

それは、「ありがとう」という言葉が校内に溢れる、温かな学校・学級（人間関係）をみんなで築いてほしい、ということです。学校は社会の縮図と例えられるように、様々な人がいます。性格も考え方も人それぞれです。自分の考えを伝える方法も伝えたことの受け取り方も違います。そんな様々な人がいても、共通することが「ありがとう」という感謝の言葉を言われて、嫌な思いをする人はいないということです!感謝の言葉は、伝える側も受け取る側も、心を穏やかで豊かにしてくれる力があると思います。小さなことにも感謝を見つけ、お互いに「ありがとう」を交わし合える、そんな優しい学校・優しい一年にいきましょう!!

「心の窓を開けて、相手の笑顔を引き出す魔法の言葉“ありがとう”を」

転入職員紹介 よろしくお願いたします